

欧州宇宙機関の宇宙ロケットアリアン5 2つの通信衛星を載せて打ち上げ成功



6日（火）、南アメリカ北東部のフランス領ギアナ（La Guyane）のギアナ宇宙センター（Centre Spatial Guyanais / CSG）で行われた、欧州宇宙機関（Agence spatiale européenne / ASE）が開発した宇宙ロケット「アリアン5（Ariane 5）」の打ち上げが成功し、無事に二つの通信衛星を軌道に乗せるという任務を果たしました。

アリアン5

アリアン5は、人工衛星を打ち上げるために、欧州宇宙機関とエアバスグループ（Airbus Group SE）のEADSアストリウム・スペース・トランスポートーション（EADS Astrium Space Transportati

on) 社によって開発、製造された使い捨て型の宇宙ロケットで、ギアナ宇宙センターから打ち上げられます。

開発に10年、70億ユーロ（およそ831億8900万円 / 1ユーロ：118円計算）の費用が投じられている一大プロジェクトです。これまでに合計101回打ち上げられていて、その内99回が成功（3回の部分的成功を含む）しています。

欧州宇宙機関

欧州宇宙機関は、フランスやドイツ、イタリアなどの10カ国によって、1975年に共同で設立された、宇宙開発、研究機関で、現在は22カ国が参加しています。

フランスに本部が置かれていて、フランス国立宇宙センター（Centre national d'études spatiales / CNES）が中心的役割を担っています。

現在の参加国は、アイルランド、イギリス、イタリア、オランダ、エストニア、オーストリア、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル、ポーランド、ルクセンブルク、ルーマニア、の22カ国です。

2つの通信衛星をのせて

アリアン5は、2つの通信衛星、合計9.8トンを搭載し、現地時間16時30分に打ち上げられ、2つの衛星を無事に軌道に乗せることに成功しました。

搭載された通信衛星の一つインテルサット39（Intelsat39）は、耐用年数は15年で、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、中東、カリブ海沿岸の広範囲におけるブロードバンド通信、プロバイダー、政府機関の通信をカバーすることができるため、活躍が期待されています。

また、もう一台の通信衛星EDRS-Cは、宇宙における光ファイバーと形容されるほど、大容量のデータを高速で通信することができ、観測衛星が収集したデータを大きな遅延なく地球へ送信する

ことが出来るため、災害などの危機管理へ応用されます。

カウントダウンは17：59から

7月の事故以来初

今回のアリアン5の打ち上げは、7月10日にアラブ首長国連邦の地球観測衛星を運ぶ宇宙ロケット「ヴェガ（la Vega）」の、打ち上げ数分後に発生した事故による失敗の後、ギアナ宇宙センターで打ち上げられた最初のロケットで、打ち上げの行方に注目が集まっていました。

執筆：Daisuke

オンラインフランス語学校

ENSEMBLE EN FRANÇAIS

アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

